

リリース ノート

Microsoft Windows Server 2003、HP Integrityミッドレンジサーバ



製品番号 : 5990-8262

2005年4月

© Copyright 2005
Hewlett-Packard Development Company, L.P.
All rights reserved.

ご注意

© 2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダ 標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。Intel、インテルおよびItaniumはインテル コーポレーションまたはその子会社のアメリカ合衆国およびその他の国における商標または登録商標です。Linuxは、Linus Torvalds氏の米国における登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

リリース ノート

Microsoft® Windows® Server 2003で動作する**HP Integrityミッドレンジサーバ**は、インテル® Itanium® 2プロセッサまたはHP mx2デュアルプロセッサモジュールおよびHP Super-Scalableプロセッサチップセットsx1000を使用し、比類のない価格で優れた性能と柔軟性および単純化された管理を実現しています。HP Integrityミッドレンジサーバには、以下のサーバモデルがあります。

rx8620	<ul style="list-style-type: none">• 2~32基(HP mx2デュアルプロセッサモジュール使用時)のItanium 2プロセッサ、または2~16基のItanium 2プロセッサ• 1TBのメモリ容量• 最大4個のハードウェアパーティション(nPartition)(Server Expansion Unit使用時)• 16個のホットプラグ対応PCI-Xスロット(オプションのServer Expansion Unit使用時は最大32個)
rx7620	<ul style="list-style-type: none">• 2~16基(HP mx2デュアルプロセッサモジュール使用時)のItanium 2プロセッサ、または2~8基のItanium 2プロセッサ• 1TBのメモリ容量• 最大2個のハードウェアパーティション(nPartition)• 16個のホットプラグ対応PCI-Xスロット

Smart Setup 3.30での新機能

このリリースは、Microsoft Windows Server 2003、64ビット用の**Service Pack 1 (SP1)** をサポートしています。また、このリリースには、以下のコンポーネントに関する重要な更新が含まれています。

システム マネジメント ホームページ (SMH) バージョン2.0.0.104

[Complex Event Viewer]ページの表示を修正するバグ フィックスが含まれています。

Pay Per Use (PPU) バージョン7.1

SP1との互換性を提供するための更新に加えて、PPUのパッケージングとインストールに関する変更が含まれています。これまで、PPUは、WMI nPartition Providerコンポーネントに付属しており、nPartition Providerのサブコンポーネントとしてのみ使用可能でした。このリリースでは、PPUは、独立したコンポーネントとなっており、独自のインストールプロセスが用意されています。正常にインストールされると、PPUは、現在インストールされているプログラムとして[プログラムの追加と削除]に個別に表示されます。このバージョンのPPUは、SP1と互換性があります。

U320 SCSI ドライバ バージョン1.10.5.1

U320 SCSIホストバスアダプタのドライバを更新します。

注

Smart Setup CDにはSP1は収録されていません。HPでは、以前より Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionで動作するHP Integrityサーバをご使用のお客様にはDatacenterアップデート用DVDを別途提供しています。また、SP1は、Microsoft社のダウンロードのWebサイトから入手することができ、SP1が適用されたWindows Server 2003 OSのリテール版メディアにも収録されています。

ソフトウェア要件

HP製品に含まれるソフトウェアに加えて、以下のソフトウェアが必要です。

Java

- Partition Managerには、Sun Microsystems社のダウンロードのWebサイト<http://java.sun.com>から入手できるJDK（32ビット）1.4.1または1.4.2が必要です。
- Integrityマネジメントエージェントには、Sun Microsystems社のダウンロードのWebサイト<http://java.com>から入手できるJRE 1.4.1または1.4.2が必要です。

Webブラウザ

RMU (Smart Setup CDのブラウザベースのインターフェース) には、Internet Explorerバージョン5.0以上が必要です。最新バージョンのInternet Explorerは、Microsoft社のダウンロードのWebサイト<http://www.microsoft.com/windows/ie/default.mspx>から入手できます。

TCP/IPおよびSNMP

HP Insightマネジメントエージェントを使用するには、TCP/IPとSNMPがインストールされ、設定されている必要があります。また、SNMPのインストールは、手動で実行する必要があります。

Utility Meter

Pay Per Use (PPU) 7.1ソフトウェアには、Utility Meterソフトウェア、バージョン7.3以上が必要です。

サポートされるコンポーネント

次の表に、各サーバでサポートされるコンポーネントを示します。

rx8620

オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none">Itaniumベース システム対応のWindows Server 2003 Enterprise Edition (SP1) およびItaniumベース システム対応のWindows Server 2003 Datacenter Edition (SP1)
LANアダプタ	<ul style="list-style-type: none">HP PCI 1000Base-T Gigabit Ethernetアダプタ for Windows V.7.86 (A7061A)HP PCI 1000Base-SX Gigabit Ethernetアダプタ V.7.86 (A7073A)HP PCI-Xデュアル ポートGigabit Ethernet SXアダプタ カード V.7.2.17.8 (A9899A)HP PCI-Xデュアル ポートGigabit Ethernet TXアダプタ カード V.7.2.17.8 (A9900A)
SCSIアダプタ	<ul style="list-style-type: none">HP PCI Ultra160 SCSIアダプタ for Windows (A7059A)HP PCIデュアル チャネルUltra160 SCSIアダプタ for Windows (A7060A)HP PCI-Xデュアル チャネルUltra320 SCSIホスト バス アダプタ (A7173A)
ファイバチャネル アダプタ	<ul style="list-style-type: none">HP StorageWorks 2GbファイバチャネルHBA (AB232A)HP StorageWorks 2Gb、64ビット/133MHz PCI-X-ファイバデュアルチャネルHBA (AB466A)HP StorageWorks 2Gb、64ビット/133MHz PCI-X-ファイバシングルチャネルHBA (AB467A)
RAIDコントローラ	<ul style="list-style-type: none">HP 2チャネルSmartアレイ5302、Ultra 160 SCSI (A9825A)HP 4チャネルSmartアレイ5304、Ultra 160 SCSI (A9826A)HP PCI-X 2チャネルSmartアレイ6402、Ultra 320 SCSI (A9890A)HP PCI-X 4チャネルSmartアレイ6404、Ultra 320 SCSI (A9891A)
VGAグラフィックス	<ul style="list-style-type: none">HP製グラフィックスおよびUSBカード (A6869A。ルートセルに接続されたI/Oシャーシでのみサポート)

注

rx8620サーバは、ブート用またはデータ用のいずれかの内蔵ドライブに接続された複数のSA53xxカードをサポートしています。たとえば、1つのスロットに、2台のブート用内蔵ドライブに接続されたSA53xxカードを挿入し、他のスロットに、2台のデータ用内蔵ドライブに接続されたSA53xxカードを挿入することができます。または、各カードを2台の内蔵ドライブに接続することもできます。

rx7620

オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> Itaniumベース システム対応のWindows Server 2003 Enterprise Edition (SP1) およびItaniumベース システム対応のWindows Server 2003 Datacenter Edition (SP1)
LANアダプタ	<ul style="list-style-type: none"> HP PCI 1000Base-T Gigabit Ethernetアダプタ for Windows V.7.86 (A7061A) HP PCI 1000Base-SX Gigabit Ethernetアダプタ V.7.86 (A7073A) HP PCI-Xデュアル ポートGigabit Ethernet SXアダプタ カード V.7.2.17.8 (A9899A) HP PCI-Xデュアル ポートGigabit Ethernet TXアダプタ カード V.7.2.17.8 (A9900A)
SCSIアダプタ	<ul style="list-style-type: none"> HP PCIシングル チャネルUltra160 SCSIアダプタ for Windows (A7059A) HP PCIデュアル チャネルUltra160 SCSIアダプタ for Windows (A7060A) HP PCI-Xデュアル チャネルUltra320 SCSIホスト バス アダプタ (A7173A)
ファイバ チャネル アダプタ	<ul style="list-style-type: none"> HP StorageWorks 2Gbファイバ チャネルHBA (AB232A) HP StorageWorks 2Gb、64ビット/133MHz PCI-X-ファイバ デュアル チャネルHBA (AB466A) HP StorageWorks 2Gb、64ビット/133MHz PCI-X-ファイバ シングル チャネルHBA (AB467A)
RAIDコントローラ	<ul style="list-style-type: none"> HP PCI-X 2チャネルSmartアレイ 6402、Ultra320 SCSI (A9890A) HP PCI-X 4チャネルSmartアレイ 6404、Ultra 320 SCSI (A9891A)
VGAグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> HP製グラフィックスおよびUSBカード (A6869A。ルートセルに接続されたI/Oシャーシでのみサポート)

注

Windows Server 2003が動作するrx7620サーバは、ブート用またはデータ用のいずれかの内蔵ドライブに接続された複数のSA64xxカードの使用をサポートしています。たとえば、1つのスロットに、2台のブート用内蔵ドライブに接続されたSA64xxカードを挿入し、他のスロットに、2台のデータ用内蔵ドライブに接続されたSA64xxカードをデータ用として挿入することができます。または、各カードを2台の内蔵ドライブに接続することもできます。

共通問題のトラブルシューティング

HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストールし、使用する前に、この項全体をお読みください。この項には、貴重な時間と作業を軽減できる対策が記載されています。

アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ (ACU)

すべての Integrityサーバ

Windows Driver Verifier (verifier.exe) がバックグラウンドで動作しているとACUを使用できない問題

Windows Driver Verifierが有効にされ、バックグラウンドで動作していると、ACUは間違った結果をレポートします。

対策

現在、対策はありません。ACUを使用するには、[Windowsタスク マネージャ]を使用して「verifier.exe」プロセスを終了し、ACUを起動します。「verifier.exe」プロセスとACUを同時に実行しないでください。

rx8620、rx7620

ACUおよびHP Insightストレージ エージェントの起動

問題

デバイス マネージャでSmartアレイ6400コントローラのドライバ プロパティを表示すると、拡張された[Tools]メニュー バーが表示されます。このメニュー バーには、ACUとHP Insightストレージ エージェントを起動するためのラジオ ボタンがあります。ただし、今回リリースされるドライバでは、このラジオ ボタンは動作しません。

対策

現時点で、これらのツールを起動する方法は次のとおりです。

- 1.ACUの場合：Windowsの[スタート]メニューから、[hpシステム ツール]、[hp アレイ コンフィギュレーション ユーティリティ]の順に選択します。
- 2.Insightストレージ エージェントの場合：システム マネジメント ホームページに進み、[HP Insight management web Agents]をクリックし、左パネルにある [Mass Storage]セクションまでスクロールして、希望するコントローラをクリックします。

デバイス ドライバ

すべての Integrityサーバ

Microsoft RTMメディアに付属していないドライバのインストール

問題

Microsoft RTMメディアからOSをインストールする場合は、システム デバイス マネージャで「感嘆符 (!)」の入った黄色のアイコンが表示されるすべてのデバイスについて、HP Integrityサーバ用のデバイス ドライバもインストールする必要があります。これらのドライバは、HP Smart Setup CDに収録されています。

対策

以下の手順に従って、Smart Setup CDからデバイス ドライバをインストールします。

- 1.HP Smart Setup CDをサーバのCD/DVD ドライブに挿入します。エンド ユーザ 使用許諾契約に同意します。
- 2.Windowsのデバイス マネージャを起動し、[表示]、[デバイス (種類別)]の順に選択してシステム デバイスを表示します。
- 3.[その他のデバイス]というエントリを展開します。

これにより、オペレーティング システムのインストール時にドライバが検出されなかったすべてのデバイスのリストが表示されます。これらのデバイスには特定の名前が付いている場合もありますが、それ以外のデバイスは「不明なデバイス」と表示されます。各アイテムには、名前の横に「感嘆符 (!)」の入った小さな黄色のアイコンが付いています。

4. 最初のアイテムを右クリックして、コンテキスト メニューから [**ドライバの更新**] を選択します。
5. [ハードウェアの更新ウィザード]画面で、[ソフトウェアを自動的にインストールする] を選択して、[次へ] をクリックします。
6. ドライバにデジタル署名がないことを示す警告ダイアログが表示される場合は、無視してください。これは問題ありません。[次へ] をクリックして次の手順に進みます。
7. 正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、[完了] をクリックします。

EFI (Extensible Firmware Interface) およびEBSU (EFI-Based Setup Utility)

rx8620、rx7620

EFI > LANBOOTコマンドを実行しても、デフォルトのLANカードが見つからない

問題

システム ブート中に、EFIプロンプトにLANBOOTコマンドを入力すると、デフォルトのLANカードが見つからないというエラーメッセージが表示されます。セルベースのシステムにはデフォルトのLANがないため、このエラーは誤って表示されています。各セルにはそれぞれのコアI/O LANがあるため、どのセルがブートし、通信するかに応じて、デフォルト パスが変化する場合があります。また、故障したハードウェアを迂回して、システムが正常にブートするために変化する場合もあります。

対策

LANBOOT SELECTコマンドを使用して、表示されるリストから希望するLANカードを選択します。

rx8620、rx7620

EBSUのMaintain Firmware機能を使用すると、一部のI/Oカード ファームウェアの値が[Local version]欄に「unknown」と表示される

問題

EBSUのMaintain Firmware機能を使用すると、一部のI/Oカード ファームウェアの値が[Local version]欄に「unknown」と表示されます。これは、カード ファームウェアが32ビットシステム用に設定されているか、EFI ドライバがないか、ファームウェアが破損しているために、カード ファームウェアがEBSUの認識するデータ構造を返さない場合に発生します。

対策

この問題を解決するには、カード ファームウェアをフラッシュしてみてください。カード ファームウェアをフラッシュして、システムをリセットしても値が「unknown」になる場合は、最寄りのサポート担当者にお問い合わせいただくか、HPのWebサイト <http://www.hp.com/support/itaniumservers> (英語) にアクセスしてください。

ファイバ チャネル	
すべての Integrityサーバ	LUtil64の[DELETE]ボタンが、選択されたEFI ドライバまたはファームウェアを削除しない
問題	LUtil64の[DELETE]ボタンは、A7298A、AB232A、AB466A、またはAB467Aアダプタでは動作しません。
対策	代わりにLUtil64の[Enable/Disable]ボタンを使用して、希望するEFI ドライバを無効にします。また、今後リリースされる新しいバージョンのEFI ドライバで問題を改善します。
すべての Integrityサーバ	HBAnywareバージョン2.0a13は、アップグレードする前に手動でアンインストールしなければならない
問題	IHBAnywareバージョン2.0a13は、新しいバージョンのHBAnywareにアップグレードする前にアンインストールしないと、SCSIportまたはSTORport ドライバ、ファイバ チャネルユーティリティ、もしくはSupport Packの動作時にシステムがハンギングすることがあります。
対策	HBAnywareバージョン2.0a13を使用している場合は、アップグレードする前に、必ず、まずこのHBAnywareバージョン2.0a13をアンインストールしてください ([コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]を使用します)。
すべての Integrityサーバ	Support Packが、新しいバージョンのFibre Channel SCSIport ドライバが入手可能であることを報告する
問題	HPの再インストール用メディアを使用してシステムを再インストールすると、Support Packのリモート展開ユーティリティは、インストールされている「Fibre Channel Adapter kit for Emulex SCSIport driver」Smartコンポーネントのバージョンが2.1.4.4であると報告します。また、Support PackにSmartコンポーネントのバージョン2.1.4.5が含まれていることも示します。実際には、Smartコンポーネントのバージョン2.1.4.4と2.1.4.5の両方に同じSCSIport ドライバが含まれています。
対策	対策は不要です。Smartコンポーネントのバージョン2.1.4.5には、以前にインストールされ現在互換性がなくなっている可能性のあるユーティリティを削除するための、アンインストール スクリプトが含まれています。
インストール	
すべての Integrityサーバ	システムの起動中に画面が空白になる
問題	システムの起動中に、画面が3~8分間空白になる場合があります (実際の時間の長さは、搭載されたシステム メモリの量によって変化します)。
対策	この事象は異常を示すものではありません。システムの活動は、システムの電源を入れてから数秒以内に、リモート端末から監視できます。
すべての Integrityサーバ	再インストール用メディアからOSをインストールする場合は16GBオプションを使用しない
問題	再インストール用メディアからOSをインストールしているときに、16GBオプションを使用する場合は、後でページファイル サイズを手動で設定しないと、(システム障害時に) カーネル メモリ ダンプを作成できません。さらに、手動設定する場合は、ページファイル サイズを20GB未満にすることをおすすめします。
対策	33GB以上のディスク ドライブでは、システム パーティションを作成する必要があります。再インストール用メディアを使用する場合は、システム ボリュームを設定するときに、33GBまたは最大 ドライブ サイズ オプションを選択してください。

rx8620、rx7620	再インストール用メディアとIPコンソール スイッチを使用すると、画面が一時的にブランクになる
問題	IPコンソール スイッチに接続されたモニタ（またはリモートセッション）が一時的にブランクになる場合があります。再インストールプロセスでは、プラグアンドプレイ式デバイスの検出手順があります。検出手順の実行中、ドライバはデバイスに接続されません。ドライバがない場合、USBポートは電源出力を無効にします。IPコンソール スイッチは、この電源を使用してローカル セッションとリモートセッションにビデオを転送します。デバイス検出が完了すると、ドライバが接続され、電源が有効になり、ビデオが表示されます。画面がブランクになっている時間はシステム構成によって異なりますが、30分に及ぶ場合があります。システムがハングしたように見えますが、この間、デバイス検出が実行されています。
対策	コマンドラインインターフェースを使用すると、システムステータスを完全に確認できます。コマンドラインは動作し続け、電源投入時のビデオ初期化の前とシステムの動作中、常にステータスが表示されます。コマンドラインは、管理プロセスサインタフェースを通じてアクセスできます。
注:	モニタがシステムに直接接続されている場合、ビデオはブランクになりません。
すべての Integrity サーバ	ヘッドレス サーバでは、F8キーの代わりにEsc8キーを使用する
問題	Windows NT4とWindows 2000のTelnetおよびHyperTerminalアプリケーションは、ファンクションキーのASCII文字列を正しくマップしません。たとえば、電源投入時セルフテスト (POST) 実行中、Smartアレイファームウェアは、 Esc キーを押すと続行し、 F8 キーを押すとコンフィギュレーションユーティリティに移ることを示すバーと設定メニューを表示しますが、ヘッドレス構成のシステムを使用している場合、 F8 キーを押しても、設定メニューが表示されません。
対策	リモート端末からこれらのアプリケーションを使用して正しい ASCII 文字列を送信するには、 Esc キーを押し、すぐに（1秒以内に）希望するファンクションキーの数値を押します。たとえば、 F8 キーのASCII文字列を送信するには、 Esc キーを押し、すぐに 8 キーを押します（端末エミュレータがUTF-8に設定されている場合は、代わりに F8 キーを押すことができます）。より簡単な処置は、TelnetやHyperTerminalの代わりにPuTTYを使用する方法です。PuTTYは、Smart Setupメディアに収録されている端末エミュレータです。PuTTYは、Webから入手することもできます。

注 ターミナルエミュレータ「PuTTY.exe」は、標準では日本語をサポートしていません。

マネジメント エージェント

すべての Integrity サーバ

新しい Insight マネジメント エージェント Smart コンポーネントが以前のバージョンを検出しない

問題

Integrity サーバ用 Insight マネジメント エージェント バージョン 3.0 は、以前のバージョンのエージェント（バージョン 2.4、2.3 など）の上書きを表示しません。新しい Smart コンポーネントは、古いコンポーネントを検出しません。

対策

機能には影響がないため、対策は不要です。このまま使用できます。

すべての Integrity サーバ

アップグレード時に古いバージョンと新しいバージョンでマネジメント エージェント用の Smart コンポーネントが同じものの場合、「インスタレーションの失敗」というメッセージが表示される

問題

Smart Setup 3.30 と Smart Setup 3.20 の Insight マネジメント エージェント Smart コンポーネントは、同じものです。バージョン 3.20 がすでにインストールされているシステムにバージョン 3.30 をインストールしようとすると、Smart コンポーネントによって、一般的な「インスタレーションの失敗」というメッセージが表示されます。このメッセージは、新しいバージョンが古いバージョンと同じであるためにインストールが不要であることを示すためのものです。

対策

機能には影響がないため、対策は不要です。

ネットワーク インタフェース カード (NIC)

すべての Integrity サーバ

システムの電源投入時に、Fiber Gigabit Ethernet の切断に関する警告メッセージが表示される（イベント ID 4 またはイベント ID 27）

問題

システムの電源投入時に、切断を示す（b57nd または e1000 から発行された）警告メッセージが表示される場合があります。A7073A カードではイベント ID 4、A9899A カードではイベント ID 27 が指定されます。

対策

これはエラーではありません。A7073A および A9899A カードで使用される自動ネゴシエーション プロセスの副次的効果です。カードは、このプロセスの最後に接続します。これは、イベント ビューアに進み、警告メッセージを確認し、これに続いて接続の成功を示す情報メッセージ（A7073A カードは情報イベント ID 11、A9899A カードは情報イベント ID 32）を参照することで確認できます。

Partition Manager

Superdome、rx8620、rx7620

システムのシャットダウン時に Microsoft Visual C++ ランタイム ライブラリのエラー メッセージ ダイアログが表示される

問題

Partition Manager を実行しているシステムをシャットダウンする際、ローカル コンソールに、Visual C++ ランタイム エラーを示すダイアログが表示される場合があります。

対策

これは、システム マネジメント ホームページのプログラム エラーですが、動作に影響はなく、対策は不要です。

Pay Per Use (PPU)

**Superdome、rx8620、『Pay Per Use User Guide』にトラブルシューティングの手順が記載されていない
rx7620**

問題

『Pay Per Use User Guide』にはトラブルシューティングに関する項がありますが、Windows ServerでのPPUに関連した問題を解決するための手順が記載されていません。

対策

PPU問題のトラブルシューティングを行う際は、イベントビューアを使用してPay Per Useソフトウェアに関連したエラーメッセージの有無を確認する必要があります。イベントビューアを開くには、Windowsデスクトップから、[すべてのプログラム]、[管理ツール]、[イベントビューア]の順に選択します。イベントビューアで、[アプリケーション]を選択し、[ソース]欄でPPUエラーの有無を確認します。

SCSI

**すべての
Integrityサーバ**

内蔵U320 SCSIコントローラを外部ディスク ドライブ コントローラとして使用している場合にWindows イベント ログにイベントID 117が生成される

問題

内蔵U320 SCSIコントローラを外部ディスク ドライブ コントローラとして使用しているHP Integrityサーバで、Microsoft Windows Server 2003が動作している場合、リブート後に断続的なイベントID 117エントリがWindowsイベント ログに生成される場合があります。

対策

これらのイベントは無視してください。これらは、システムの問題やデータ消失の発生しないタイムアウト状態を示しています。

Service Pack 1 (SP1)

**すべての
Integrityサーバ**

SP1のインストール後にWindowsファイアウォールによってネットワーク アクセスがブロックされる

問題

SP1で導入されたセキュリティ拡張機能の一部として、SP1のインストールが完了すると、Windowsファイアウォールがデフォルトで有効になります。このファイアウォールは、デフォルトで、すべてのTCPおよびUDP通信をブロックします。このため、SNMPやリモートデスクトッププロトコルなどのいくつかのサービスは、接続を確立できなくなります。

対策

SP1をインストールしたら、システムのあるサイトのセキュリティポリシーに合わせて、Security Configuration Wizardを使用するか、Windowsファイアウォールを設定する必要があります。接続を復元するために一部のサービスを例外として指定しなければならない場合もあります。詳しくは、Windowsファイアウォールに関するMicrosoft社の資料またはオンラインヘルプを参照してください。

Smartアレイ

**すべての
Integrityサーバ**

Smartアレイ 640x/530xがシステム イベント ログにエラーを生成する (イベントID 9)

問題

I/O負荷が非常に大きい場合、Smartアレイ ドライバ (cpqcissm) がシステム イベント ログにイベントID 9エラーを生成することがあります。

対策

問題やデータ消失は発生しないため、これらのイベントを無視してください。現在、解決策はありません。

**すべての
Integrityサーバ**

内蔵ディスク ドライブ コントローラとしてのSmartアレイ6402がシステム イベント ログにエラーを生成する (イベントID 9とイベントID 117)

	問題	Smartアレイ 6402が内蔵ディスク ドライブコントローラとして動作している場合、リブート後に断続的なイベントID 9およびイベントID 117エントリがWindowsイベント ログに生成される場合があります。
	対策	問題やデータ消失は発生しないため、これらのイベントを無視してください。現在、解決策はありません。
すべての Integrityサーバ	1台のパワー サプライを搭載した、分割バス構成のStorageWorks 43xxエンクロージャで、エラーが発生する場合がある	
	問題	Ultra3デュアル バスI/Oモジュールと1台のパワー サプライを搭載した、デュアル バス構成のStorageWorks 43xxエンクロージャは、Smartアレイ コントローラに接続したときにエラーを通知し、論理ボリュームを認識できない場合があります。実際にドライブが交換されていない場合でも、StorageWorks 44xxエンクロージャのポートAによって、下側ベイ（ポートA、ベイ1～7）に挿入されたすべてのドライブがホットプラグ リプレースされたと断続的に通知される場合があります。その結果、アレイ コントローラが論理ボリュームを認識できず、データにアクセスできなくなる場合があります。
		また、起動させるオペレーティングシステムがこのドライブにインストールされている場合は、サーバがハンギングしたり、ブルースクリーンが表示されることがあります。サーバをリブートするとドライブが正常に動作しているように見えますが、一部のデータにアクセスできない場合があります。電源投入時セルフテスト(POST)のエラー メッセージは表示されません。エンクロージャ内のパワー サプライやファンの位置にかかわらず、問題が発生します。この問題は、Ultra3デュアル バスI/Oモジュールでデュアル バス構成されたStorageWorksエンクロージャ モデル4314R、モデル4314T、モデル4354Rが1台のパワー サプライしか搭載しておらず、Smartアレイ 5302またはSmartアレイ 5304コントローラと接続された場合に発生します。
	対策	少なくとも2台のパワー サプライを搭載したStorageWorksエンクロージャを使用してください。
すべての Integrityサーバ	"Smart Array Option ROM Configuration for Arrays Utility"にアクセスできない	
	問題	システム ブート中にUSBキーボードの F8 キーを押しても、ルートセルI/Oシャーシ（コアI/Oシャーシ）にあるSmartアレイ コントローラの[Smart Array Option ROM Configuration for Arrays Utility]メニューにアクセスできません。 注: この問題は、HP製グラフィックスおよびUSBカードに接続されたUSBキーボードを使用して、Smartアレイを構成している場合にのみ発生します。MPのシリアルコンソールは、正常に動作します。
	対策	以下の手順に従ってください。
		<ol style="list-style-type: none"> 1. EFI Boot Managerで、EFIシェルを選択します。 2. EFIプロンプトで、<code>search <core cell></code>と入力します。たとえば、コアセルが0の場合は、<code>search 0</code>と入力します。 3. [Smart-Array Option ROM Configuration for Arrays Utility]メニューが表示されたら、USBキーボードのF8キーを押します。 4. 以上で、[Smart-Array Option ROM Configuration for Arrays Utility]メニューが表示されます。

**Superdome、
rx8620、rx7620**

システム ブート中にSmartアレイ 640x/530xが自動的にロードされない場合がある

問題

システム ブート中に、Smartアレイ 640xまたは530xカードがRAID構成用にロードされない場合があります。

対策

システムは内蔵デバイスのみをスキャンします。そのため、Smartアレイ オプションROMを手動でロードする必要があります。EFIシェルでsearch allコマンドを実行すると、Smartアレイ オプションROMをロードできます。ユーザは、search x yコマンド（たとえば、search 0 8）を使用する必要があります。ただし、xはセル番号、yはPCIスロット番号です。

rx8620、rx7620

故障したドライブを交換すると、Smartアレイ 640x/530xコントローラが内蔵ハードディスク ドライブアレイを自動的に再構築しない

問題

故障したドライブを交換すると、Smartアレイ 640x/530xコントローラが内蔵ディスクアレイを自動的に再構築しません。ドライブがシステムにホットインサートされた場合、サーバのバックプレーンは、Smartアレイ アダプタが認識するために必要な管理機能を提供しません。

対策

以下の手順に従って、Smart Array Rescan Serviceをインストールすることによって、ドライブの交換後に再構築が開始されます。

1. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から最新バージョンのSmartアレイ フームウェアをダウンロードしてフラッシュします。

注：SA640xコントローラの最低限のファームウェア リビジョンは2.28です。
SA530xコントローラの最低限のファームウェア リビジョンは3.56です。

2. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から最新バージョンのアレイ コンフィギュレーションユーティリティ (ACU-XE) をダウンロードしてインストールします。最低限必要なACU-XEのリビジョンは7.15.18.0です。

3. HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から、Smart Array Rescan Serviceをダウンロードしてインストールします。最低限必要なRescan Serviceのリビジョンは0.1です。

4. 内部ハードディスク ドライブ アレイに障害が発生している場合は、故障した物理ドライブを交換します。Rescan Serviceが自動的に再構築を開始します（再構築が開始するまでに最長で5分かかることがあります）。再構築をすぐに開始するには、アレイ コンフィギュレーションユーティリティ (ACU-XE) を開いて、[コントローラのステータス] フィールドの[更新]を選択します。障害が発生したアレイの再構築が開始されます。

rx8620、rx7620

Smartアレイ 640xのホット アドがサポートされていない

問題

Smartアレイ 6402または6404カードをスロットにホット アドすると、カードは機能せず、デバイスマネージャで、対応するデバイスの横に黄色の感嘆符が表示されます。また、ホットアドされたSA640xカードは、再起動しないと安全にシステムから取り外すことができません。

対策

現在、HP Integrityサーバでは、Smartアレイ 640xのホット アドがサポートされていません。通常のホットアド手順でカードを挿入することはできますが、カードは次の再起動まで機能しません。

注：SA530xではホットアドが完全にサポートされています。

rx8620、rx7620	エラー メッセージの表示中、Smartアレイ6400コントローラをホットリプレースできない
問題	Smartアレイ6400コントローラは、[プログラムがデバイス'Smart Array 6400'にまだアクセスしているため、デバイスを停止できません]というエラー メッセージの表示中はホットリプレースできません。
対策	ストレージエージェント サービスを再起動し、もう一度コントローラをホットリプレースしてください。
システム マネジメント ホームページ (SMH)	
すべての Integrityサーバ	システム マネジメント ホームページが開かない
問題	プロキシ サーバを通してアクセスするようにInternet Explorerが設定されており、[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]チェックボックスを選択していない場合は、ローカルのSMH (https://localhost:2381) に接続しようとすると「ページが見つかりません」というエラー メッセージが表示されます。
対策	以下の手順に従って、ローカルアドレスに対してプロキシ サーバを使用するようInternet Explorerを設定します。
<ol style="list-style-type: none">1. Internet Explorerで、[ツール]、[インターネットオプション]の順にクリックします。2. [接続]タブをクリックします。3. [LANの設定]ボタンをクリックします。4. [プロキシ サーバー]から、[ローカルアドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]チェックボックスを選択します。	
また、SMHのショートカット(デスクトップ上のアイコン)を変更する方法('https://localhost:2381'に代えて 'https://127.0.0.1:2381' をリンク先にする)もあります。	
すべての Integrityサーバ	システム マネジメント ホームページがエラーをWindowsアプリケーションイベント ログに記録する
問題	SMHのインストールとアンインストールや、SMHサービスの停止と開始を何回も頻繁に繰り返した場合は、次のようなエラーがWindowsアプリケーションイベント ログに記録されることがあります。 <pre>Faulting application smhstart.exe, version 2.0.0.103, faulting module unknown, version 0.0.0.0, fault address 0x00000000.</pre>
対策	このメッセージは、SMHの動作に影響を与えません。アプリケーションは、継続して正常に動作します。万一プログラムが終了するような場合は、SMHをアンインストールし、C:\hp\hpsmhディレクトリを削除して、SMHをインストールしなおしてください。

Superdome, rx8620, rx7620	Support Packが、Partition Managerと互換性のないバージョンのSMHをインストールする
	問題 <p>Smart Setup 3.30 Support Packには、ACUなどのWebアプリケーションを提供するSMHバージョン2.0.0.104が含まれています。ただし、Partition Managerには、JSP/Servletコンテナへのコネクタを持つSMHバージョン2.0.1.8が必要です。Partition Managerが現在動作しているシステムにSupport Packをインストールすると、コネクタを持つSMH実行ファイルが上書きされ、JSP/Servlet コンテナへのリンクが断たれます。このため、SMHからPartition Managerにアクセスできなくなります。</p>
	対策 <p>IntegrityサーバでPartition Managerを使用するには、Support Packをインストールした後にPartition Manager(64ビット)バンドルをインストールする必要があります。Partition Managerがすでに動作しているIntegrityサーバにSupport Packをインストールする場合は、必ず、Partition Manager (64ビット) バンドルに含まれているJSP/Servletコンテナを再インストールしてください。</p>
バージョンコントロール	
すべての Integrityサーバ	システム マネジメント ホームページ (SMH) の再インストール後にバージョン コントロール レポジトリ マネージャ (VCRM) が起動しない
	問題 <p>SMHをアンインストールし、システムを再起動して、SMHを再インストールした場合、VCRMは起動できません。この問題は、SMHのアンインストールと再インストールの間にシステムを再起動した場合にのみ発生します。</p>
	対策 <p>SMHを再インストールしてからVCRMを再インストールしてください。</p>
すべての Integrityサーバ	バージョン コントロール レポジトリ マネージャ (VCRM) が日本語版のOSから日本語版のSupport Packをアップロードしない
	問題 <p>日本語版OS上でVCRMを使用する場合、VCRMは、日本語版のSupport Packではなく英語版のSupport Packをアップロードします。</p>
	対策 <p>日本語版のOSでSupport Packをアップロードする前に、ブラウザの言語設定を「英語[en]」または「英語[en-us]」に変更し、日本語版のSupport Packをアップロードして、ブラウザの言語設定を「日本語[ja]」に戻してください。</p>

Windows Server 2003のインストール

HP Integrityサーバを購入する際は、Windows Server 2003プリインストールモデルか、自分でインストールするかを選択できます。HP Smart Setupメディアは、OSをインストールし、サーバファームウェアを同時に更新するためのツールを提供しています。以下に、HP Smart SetupメディアとWindows Server 2003ライセンスを使用して、HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストールする手順について説明します。

いずれかのコンソールからインストールする手順は、サーバを準備し、HP SmartSetupメディアからブート後、EBSUを実行します。Windows Setupが起動後、ブートディスクにOSファイルがロードされます。

インストール用にサーバを準備する

- 手順1. すべてのサーバハードウェアがWindowsと互換性があることを確認します。
- 手順2. 別のOSから移行する場合は、データがバックアップされ、復元可能であることを確認する必要があります。
- 手順3. 不要なすべてのディスクコントローラ（SANコントローラを含む）との接続を切断します。
- 手順4. ローカルコンソールからインストールする場合は、ローカルコンソールをセットアップし、VGAカードを取り付けます。この手順はオプションです。
- 手順5. サーバのMPシリアルポート（ヌルモデムケーブル）またはMP LANポート（ハブが必要）に、PuTTYバージョン0.57以上またはHyperTerminalが動作するPCを接続します。

セル ローカル メモリを設定する

- 手順1. Par Commands ウィザードまたはParCLIを使用して、メモリを最大セルローカルメモリ（CLM）モードに設定します。
手順について詳しくは、『nPartitionガイド』を参照してください。
- 手順2. すでにパーティションが作成されている場合は、parstatusを使用してメモリの設定状況を確認します。
例：

```
parstatus -p2 -V -g passwd -h myserver
```

ACPIフラグを[Windows]に設定する

Windowsオペレーティングシステムオプション（Microsoft社製の市販メディアやHP Smart Setupメディアなど）付きのサーバを購入した場合、ACPIフラグは出荷時にwindowsに設定されています。別のオペレーティングシステム付き、またはオペレーティングシステムなしでサーバを購入した場合は、このフラグをwindowsに設定する必要があります。

注意

ACPIフラグをwindowsに設定せずにWindows Server 2003からサーバをブートすると、ブルースクリーンエラーになります。

- 手順1. サーバの電源を入れ、EFIからブートします。

手順2. EFIシェルから、acpiconfigとタイプします。

現在のACPI設定が表示されます。フラグが**windows**に設定されている場合は、次のように表示されます。
acpiconfig: windows

手順3. フラグが**windows**に設定されていない場合は、acpiconfig windowsとタイプします。

手順4. acpiconfigとタイプして、もう一度設定を表示し、フラグが正しく設定されていることを確認します。

注

システム ファームウェアを更新すると、このフラグが**デフォルト**にリセットされる場合があります。システム ファームウェアをフラッシュした後で、このフラグが**windows**に設定されていることを確認してください。

EBSUを実行する

EBSUは、ファームウェアをフラッシュし、ハードディスク上に専用のパーティションを作成します。その後、HPの診断ツールをインストールすると、ストレージコントローラの構成や、ほかのEFIユーティリティを実行するために使いやすいインターフェースを提供しています。

手順1. サーバのDVD ドライブに、HP Smart Setupメディアをロードします。

手順2. EFI Boot Managerの[Boot Menu]から、[Internal Bootable DVD]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順3. EBSUが起動し、[Welcome]画面が表示されます。[OK]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

手順4. メインメニューから、[Express Setup]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順5. Express Setupの開始画面が表示されます。**Enter**キーを押して続行します。

手順6. 各デバイス、インストールされているファームウェア バージョン、Smart Setupメディア上のファームウェア バージョンをリストするファームウェア更新画面が表示されます。ファームウェアを更新するデバイスを選択します。[Next]を選択し、**Enter**キーを押して続行します。

注

EBSUを使用しても、デバイスのファームウェアをフラッシュできない場合があります。インストールされているバージョンが、Smart Setupメディア上にあるバージョン以上の場合は、ファームウェアをフラッシュできません。また、EBSUを使用しても、管理プロセッサ (MP) ファームウェアはフラッシュできません。HP Integrityサポートサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>(英語)から、最新のMPファームウェアをダウンロードし、別々にフラッシュする必要があります。

手順7. 作成するディスク パーティションを指定します (ESPのみまたはESP+HPSP+MSR)。サーバのメンテナシスを簡素化する手段として、デフォルトのESP+HPSP+MSRをおすすめします。また、EFIでドライブを参照できるように、Drive Explorerユーティリティをインストールするオプションを指定します。[Yes]を選択します。[Next]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順8. (HP Itanium Processor Family offline diagnostics and utilities CDから) オフライン診断ツールをインストールするオプション (b. Run the off-line diagnostics Environment) を指定します。[Yes]を選択します。また、Windows OS Installerを起動するオプションを指定します。[Yes]を選択します。[Setup]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順9. パーティション確認ウィンドウが表示されます。[Continue]を選択し、**Enter**キーを押します。

手順10. DVD ドライブに、Microsoft Windows Server 2003 CDの挿入を指示するメッセージが表示されます。Microsoft Windows Server 2003 CDを挿入し、**Enter**キーを押します。

Windows Setupを実行する

Windows Setupでは、必要に応じてブートディスクにシステムパーティションを作成することができ、そのパーティションにオペレーティングシステムファイルをコピーし、再起動してブートディスクから起動しようとします。

- 手順1. DVDドライブにMicrosoft Windows Server 2003 CDを挿入すると、Windows Setupが起動します。**Enter**キーを押して、インストールを開始します。
- 手順2. [Express Install]または[Custom Install]の選択を指示するメッセージが表示されます。[Express Install]を選択すると、さまざまなインストールオプションが自動的に選択されるため、ユーザの操作はほとんど必要ありません。**Enter**キーを押して、[Express Install]を選択します。
- 手順3. システムパーティションが存在しない場合、パーティションの作成を指示するメッセージが表示されます。**Enter**キーを押して続行します。パーティションが作成され、パーティションのフォーマットを指示するメッセージが表示されます。
- 手順4. OSをインストールするパーティションを選択し、**Enter**キーを押します。必要に応じてパーティションがフォーマットされ、パーティションエラーがチェックされ、OSファイルのコピーが開始されます。
- 手順5. コピー プロセスが完了するまで監視します。
コピーが完了すると、リブートが開始されます。システムがリブートします。

サーバ設定を指定する（ローカルコンソール）

ローカルコンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. システムが起動すると、EMS（緊急管理サービス）チャネル（MPリモートポート）が存在することを示す画面が表示されます。このモードでは、マウスとキーボードが動作するまでに2~15分かかります。
- 手順2. サーバ設定の入力を指示するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
- 手順3. Windows Setup ウィザードから、以下のセットアップ情報を入力します。
 - 1.[マイクロソフトソフトウェア使用許諾書]で、[同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。
 - 2.[地域と言語のオプション]ウィンドウで、[次へ]をクリックします。
 - 3.[プロダクトキー]ウィンドウに、プロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックします。
プロダクトキーは、サーバに添付されたラベルに記載されています。
 - 4.[ライセンスモード]ウィンドウで、購入したライセンスを選択し、[次へ]をクリックします。
 - 5.[コンピュータ名とAdministratorのパスワード]ウィンドウに、サーバ名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。
 - 6.[日付と時刻の設定]ウィンドウで、適切な時間帯を選択し、[次へ]をクリックします。
- サーバがEFI Boot Managerからリブートします。
- 手順4. EFIの[Boot Menu]から、[Windows Server 2003]を選択します。サーバがWindowsからブートします。
- 手順5. 先に指定したAdministratorのパスワードで、システムにログインします。

システム設定を指定する（リモート コンソール）

リモート コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1.** SAC>プロンプトで、**Esc+Tab**キーを押して、チャネル1に切り替えます。

次の画面が表示されます。

```
*****
```

Name:	Unattended Setup Channel
Description:	Provide parameters to automate Setup
Type:	VT-UTF8
Channel GUID:	0cf0ee2-3a27-11d7-8484-806e6f6e6963
Application Type GUID:	00000000-0000-0000-0000-000000000000

```
Press <esc><tab> for next channel.
```

```
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.
```

```
Use any other key to view this channel.
```

```
*****
```

- 手順2.** 任意のキーを押し、**Page Down**キーを押します。

- 手順3.** **F8**キーを押して、マイクロソフト ソフトウェア使用許諾書を受け入れます。

Windowsのデフォルト端末エミュレータでは、**F8**キーは**<Esc>8**です。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押します。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押さないと、**Esc**キーだけが認識され、システムがリブートします。

- 手順4.** プロダクト キーを入力します。

プロダクト キーは、サーバに添付されたラベルに記載されています。

- 手順5.** Administratorのパスワードを入力し、確認のために再入力します。

Mini-setup ウィザードが自動的に継続し、完了すると、システムがリブートします。SAC>プロンプトが再表示されるのを待ちます。

- 手順6.** 端末サーバクライアントを開き、サーバのIPアドレスに接続します。必要に応じて、コンピュータ名とIPアドレスを変更します。

- 手順7.** デスクトップで、[Online Reference]ページを開き、一番下までスクロールします。Note.3の[If you installed via the remote console and you need change your user and company name;Click Here to change.]の[Click Here]の部分をクリックします。すると**usercompanyname.cmd**が起動します。

- 手順8.** メッセージが表示されたら、会社名とユーザ名を入力し、[OK]をクリックして、セットアップを完了します。

Windows Server 2003の再インストール

HP Integrityサーバを購入する際は、Windows Server 2003をプリインストールするオプションを選択できます。Windowsオペレーティングシステムがプリインストールされたサーバには、必要な場合にデフォルト設定に戻すことができるHP再インストール用メディアが付属しています。以下の各項で、HP再インストール用メディアを使用して、HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストールする手順について説明します。

ローカル コンソールから

ローカル コンソールからMicrosoft Windows Server 2003を再インストールするには、再インストール用メディアからディスクにオペレーティング システムのイメージをコピーし、システムをセットアップします。以下の各項で、システム管理者向けに、サーバを迅速に稼動させる手順について説明します。手順について詳しくは、『Smart Setupガイド』を参照してください。

オペレーティング システムをロードする

ローカル コンソールからサーバにWindows Server 2003を再インストールするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1.** ブート コントローラを除くすべてのコントローラから、すべての大容量記憶装置との接続を切断します。インストールの完了後に再接続できるように、他のデバイスの接続を書き留めます。

警告

OSは、adapter 0 drive 0として検出されたブート コントローラにインストールされます。他のすべてのドライブの接続を切断しないと、意図しないドライブにOSがインストールされる場合があります。

- 手順2.** ブート コントローラとドライブを構成します。
RAID コントローラを使用している場合は、RAID コントローラのマニュアルの説明に従って、コントローラを準備し、RAIDタイプを選択してください。

- 手順3.** Windows Server 2003 SP1では、すでにブート エントリが存在する場合、ブート エントリを作成できないので、既存のブート エントリを削除する必要があります。ブート エントリを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [EFI Boot Manager]、[Boot option maintenance menu]、[Delete Boot Option(s)]の順に選択します。
2. 削除するWindows Server 2003ブート エントリを選択し、**Enter**キーを押します。

- 手順4.** DVD ドライブに、HP再インストール用メディアを挿入します。

- 手順5.** EFI Boot Managerの[Boot Menu]から、[Internal Bootable DVD]を選択し（存在する場合）、**Enter**キーを押します。

このエントリが存在しない場合は、以下の手順に従ってください。

1. [EFI Shell]を選択します。
2. EFIシェルで、DVDファイル システムを選択します。
たとえば、DVDファイル システムがfs1の場合には、**fs1 :**とタイプします。
3. **setupldr**とタイプして、ブート ローダを起動します。

- 手順6.** [Recovery Console]で、[Re-Install]をクリックします。

- 手順7.** 再インストールの確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

手順8. パーティション サイズを選択し、[OK]をクリックして続行します。

注

インストールプロセスによって、ファイルがハードディスクにコピーされます。長時間にわたって[99% complete]が表示される場合があります。サーバの電源を切らないでください。

手順9. ダイアログ ボックスが表示されたら、[OK]をクリックして続行します。

手順10. [Exit]をクリックします。

サーバが、Windows Server 2003オペレーティング システムからリブートします。次の項の指示に従つて、システムをセットアップしてください。

システム設定を指定する

ローカル コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

手順1. ACPIが[Windows]に設定されていることを確認します。

1.EFIシェルで、ACPICONFIGとタイプします。

ACPIが正しく設定されている場合は、次のように表示されます。

```
acpiconfig settings: windows
```

2.ACPIが正しく設定されていない場合は、次のコマンドをタイプします。

```
ACPICONFIG WINDOWS
```

3.サーバをリセットします。

手順2. サーバの電源を入れます。

EMSチャネル（ヘッドレス サーバMPポート）が存在することを示すポップアップ画面が表示されます。このモードでは、マウスとキーボードが動作するまでに2~15分かかります。

手順3. ローカル コンソールで、セットアップ情報の入力を指示するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

手順4. Windows Setup ウィザードから、以下のセットアップ情報を入力します。

1.[マイクロソフト ソフトウェア使用許諾書]で、[同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。

2.[地域と言語のオプション] ウィンドウで、[次へ]をクリックします。

3.[プロダクトキー] ウィンドウに、プロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックします。

プロダクトキーは、サーバに添付されたラベルに記載されています。

4.[ライセンス モード] ウィンドウで、購入したライセンスを選択し、[次へ]をクリックします。

5.[コンピュータ名とAdministratorのパスワード] ウィンドウに、サーバ名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします。

6.[日付と時刻の設定] ウィンドウで、適切な時間帯を選択し、[次へ]をクリックします。

サーバがEFI Boot Managerからリブートし、Windows Server 2003を起動します。設定したAdministratorのパスワードを使用して、サーバにログインできます。

リモート コンソールから

リモート コンソールからMicrosoft Windows Server 2003を再インストールするには、再インストール用メディアからディスクにオペレーティング システムのイメージをコピーし、システムをセットアップします。以下の各項で、管理者向けに、サーバを迅速に稼動させる手順について説明します。手順について詳しくは、『Smart Setupガイド』を参照してください。

オペレーティング システムをロードする

リモート コンソールからサーバにWindows Server 2003を再インストールするには、以下の手順に従ってください。

手順1. 端末エミュレータを使用して、対象システム パーティションに接続します。

注 Windows XPでは、[アクセサリ]、[通信]の順に選択すると、Terminal Servicesクライアントを使用できます。Windows 2000では、Terminal Servicesクライアントをインストールしないと使用できません。

手順2. Windows Server 2003 SP1では、すでにブートエントリが存在する場合、ブートエントリを作成できないので、既存のブートエントリを削除する必要があります。ブートエントリを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [EFI Boot Manager]、[Boot option maintenance menu]、[Delete Boot Option(s)]の順に選択します。
2. 削除するWindows Server 2003ブートエントリを選択し、**Enter**キーを押します。

手順3. EFI Boot Managerの[Boot Menu]から、[Internal Bootable DVD]を選択し（存在する場合）、**Enter**キーを押します。

このエントリが存在しない場合は、以下の手順に従ってください。

1. [EFI Shell]を選択します。
2. EFIシェルで、DVDファイルシステムを選択します。
たとえば、DVDファイルシステムがfs1の場合、**fs1** : とタイプします。
3. **setupldr**とタイプして、ブートローダを起動します。

手順4. SAC>プロンプトで、**cmd**とタイプします。

手順5. **Esc+Tab**キーを押して、新しいコマンドプロンプト チャネルに切り替えます。

手順6. **txtrstorer**とタイプして、インストールメニューを起動します。

手順7. パーティション サイズ（推奨サイズは33GB）を選択し、[OK]をクリックして続行します。

注 インストールプロセスによって、ファイルがハードディスクにコピーされます。長時間にわたって[99% complete]が表示される場合があります。サーバの電源を切らないでください。

手順8. インストールプロセスが完了すると、メイン コンソールまたはVGAディスプレイにEMSが検出されたことを示す画面が表示されます。ローカル コンソールの使用を指示するメッセージが表示されたら、[OK]をクリックしないでください。

手順9. リモート コンソールに戻り、次の項の指示に従って、システムをセットアップしてください。

システム設定を指定する

リモート コンソールから初めてブートした後で、Windows Server 2003をセットアップするには、以下の手順に従ってください。

- 手順1.** SAC>プロンプトで、**Esc+Tab**キーを押して、チャネル1に切り替えます。

次の画面が表示されます。

```
*****
```

```
Name: Unattended Setup Channel
Description: Provide parameters to automate Setup
Type: VT-UTF8
Channel GUID: 0cf0ee2-3a27-11d7-8484-806e6f6e6963
Application Type GUID: 00000000-0000-0000-0000-000000000000
```

```
Press <esc><tab> for next channel.
```

```
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.
```

```
Use any other key to view this channel.
```

```
*****
```

- 手順2.** 任意のキーを押し、**Page Down**キーを押します。

- 手順3.** **F8**キーを押して、マイクロソフト ソフトウェア使用許諾書を受け入れます。

Windowsのデフォルト端末エミュレータでは、**F8**キーは**<Esc>8**です。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押します。**Esc**キーを押してから2秒以内に**8**を押さないと、**Esc**キーだけが認識され、システムがリブートします。

- 手順4.** プロダクトキーを入力します。

プロダクトキーは、サーバに添付されたラベルに記載されています。

- 手順5.** Administratorのパスワードを入力し、確認のために再入力します。

Mini-setupプロセスが自動的に継続し、完了すると、システムがリブートします。SAC>プロンプトが再表示されるのを待ちます。

- 手順6.** **i**と入力して、サーバのIPアドレスを表示します。

- 手順7.** 端末サーバクライアントを開き、サーバのIPアドレスに接続します。

必要に応じて、コンピュータ名とIPアドレスを変更します。

- 手順8.** デスクトップで、[OnlineReference]ページを開き、一番下までスクロールします。Note.3の[If you installed via the remote console and you need change your user and company name;Click Here to change.]の[Click Here]の部分をクリックします。すると**usercompanyname.cmd**が起動します。

- 手順9.** メッセージが表示されたら、会社名とユーザ名を入力し、[OK]をクリックして、セットアップを完了します。

技術資料

Windows Server 2003が動作するHP Integrityサーバに関する技術資料には以下のマニュアルがあります（英語および日本語）。これらのマニュアルは、HP Smart Setupメディアに収録されています。また、HP IntegrityサポートのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）からも入手できます。

『Smart Setupガイド』

HP IntegrityサーバにWindows Server 2003をインストール、再インストール、移行する手順について説明しています。

『nPartitionガイド』

Windows Server 2003が動作するセルベースのHP IntegrityサーバにnPartitionを作成、設定、管理する手順について説明しています。

『Kernel Debug Guide』

Windowsオペレーティング システムのカーネル デバッグ環境をセットアップし、実行する手順について説明しています。また、OSのトラブルシューティングに関するヒントについても説明しています。

『Support Packおよび展開ユーティリティ ユーザ ガイド』

Windows Server 2003 64ビット サーバ環境で、展開ユーティリティを使用し、日常的なソフトウェアメンテナンス作業を実行するツールをセットアップする手順について説明しています。

『Management Events Reference』

HPマネジメント エージェントforサーバfor Windowsによって生成されるSNMPトランプに関連したMicrosoft Windows Server 2003とMicrosoft Windows Server 2000のイベントログメッセージを掲載しています。

『Management Agents Guide』

Windows Server 2003が動作するHP IntegrityサーバにHP Insightマネジメント エージェントをインストール、設定、使用する手順について説明しています。

『Pay Per Use User Guide』

Windows Server 2003が動作するHP IntegrityサーバにHP Pay Per Use (PPU) ソフトウェアをインストール、設定、使用する手順について説明しています。

テクニカル サポート

最新のファームウェア、ドライバ、ユーティリティでサーバを最新状態に維持するには、定期的にHPテクニカル サポートのWebサイトを参照してください。

Windows固有のファームウェア、ドライバ、ユーティリティ入手する

Windows Server 2003に適用されるrx7620およびrx8620サーバのファームウェア、ドライバ、ユーティリティを入手するには、以下の手順に従ってください。

- 手順1. HPのWebサイト<http://www.hp.com/> (英語) にアクセスします。
- 手順2. [Driver Downloads]をクリックします。
- 手順3. [Software & Driver Downloads]ページで、[Download drivers and software]を選択し、[for product]フィールドにrx7620またはrx8620とタイプします。
- 手順4. [specify operating system]ページで、[Microsoft Windows Server 2003 64-bit]を選択します。
- 手順5. [download drivers and software for HP Integrity rx7620(またはrx8620)server- Microsoft Windows Server 2003 64-Bit]のWebページで、必要に応じてファームウェアとドライバをダウンロードします。

注

HP Integrity rx7620およびrx8620サーバのシステム ファームウェアの更新は、HPのCEだけが許可されています。ファームウェアをアップデートする際は、HPのサービス窓口にお問い合わせください。

HPサポート通知の登録

ご使用のサーバ固有のドライバ、パッチ、およびその他のコンポーネントに関する更新情報を入手するために、アラートおよび通知の登録をおすすめします。HPのWebサイト<http://www.hp.com/united-states/subscribe/gateway/> (英語) にアクセスしてください。

